

## シリーズ

# ごみの資源化施設の建設に関する意見交換会

## 草の根 レポート ⑤ 3月5日 於て 南市民センター

### \*はじめに

町田市の諮問を受け、2009年6月から2011年3月にかけて『廃棄物減量など推進審議会』（会長 細見正明氏）が開かれ10年後の町田市のごみ処理のあり方について答申を出した。答申の基本理念は「町田市43万市民は、地域や地球の環境を守るために、「ごみになるものを作らない・燃やさない・埋め立てない」を原則とし、徹底したごみの減量・資源化を図りつつ持続可能で環境負荷の少ない都市を目指すこととしている。具体的には、2009年度ごみとして処理している9万9千tを2020年までに6万tに減らす計画で、ごみとして処理する量の40%を削減することになる。また、現状の資源化率27%を54%に進めることとなる。この答申をうけ、市は2011年4月『町田市一般廃棄物資源化基本計画』を策定した。この『町田市一般廃棄物資源化基本計画』をもとに2011年5月、『町田市資源循環型施設整備基本計画検討委員会』（委員長 細見正明氏）が発足。2020年度に新たなごみの資源化施設を稼動することを目指した検討が始まっている。この間の検討内容を、市民と意見交換し今後の検討に反映するため、意見交換会が市内7箇所で開催された。

### \*南市民センターで出された市民意見の概要

- メタン化施設生ごみ〇〇kgあたりどのくらいのメタンガスができるのか？メタン化施設でどのくらいのガスの生成をみこんでいるのか？
- メタン化率は？投入するごみ量にたいしてどのくらいのガスが見込まれるか？排水・残渣の割合は？
- 廃プラスチックの実験について、クロロフォルムとトルエンの基準値は？ホルムアルデヒドはどのくらい検出されたのか？
- 現状の熱回収施設や廃プラスチックの圧縮実験で基準値をはるかに下回っているとあるが理解しづらい。身近なものに置き換えて説明を。たとえば車の排気ガスに置き換えると何パーセントとか
- k規制値の意味は？自主規制値とは？
- 家庭用の生ごみ処理機購入助成をもっとすべき
- 余熱施設として、どのような施設を検討しているのか？新宿とかでもやっている。地域いったい潤すようなことを構想したらどうか
- 町田市の活断層の場所は？
- 一年前の意見交換会でも言ったが新庁舎に施設は建設し、新庁舎のエネルギーとしてつかえればいい。
- 地域住民の居住状況、人口密度当も評価項目にいれてほしい

○南地域にはごみ収集の中継地であるリレーセンターみなみもあり、さらに国道16号、246号、東名高速があり交通渋滞もあり、収集効率も落ちる。また市境にも近い

○建設候補地は国有地の払い下げや安価な私有地の購入はしないのか？

○生ごみの処理・廃プラスチックは地産地消すべき

○今後のスケジュールは？

○第三次評価項目にすでに環境が悪くさらに住民の負担を増加させる場所は除くという項目を検討すべき。鶴間地域は東名、16号、246号、と大きなインターチェンジがある。騒音、排気ガス等環境的にはすでに負担がかかっている地域公共にすでに寄与している小山田よりも空気は悪い。評価項目に暗騒音と排気ガスをいれてほしい。

○隣の大和市や相模原市は市民がプラスチックを分別しているのに、結局燃やしてしまっているときくが・・・

○10年前にこの地域でプラスチック資源化施設の建設の大きな反対運動がおきた。そのときの市は、最初から場所も業者も決めて、スケジュールも決めて契約までして、持ってきた。それで強烈な反対運動が起きた。その後、半年か一年ぐらい市は業者に土地代を払っていた。施設建設に当たっては、建設候補地となった所とは、事前に、このような意見交換の場を2回3回と持ち、ある程度住民も納得した中で進めるべき。

○生ごみ処理機をグループで取り組んだ。ところが機械本体の接続が悪く、接続部分が切れてしまった。メーカーに問い合わせたら修理はできないとのつめたい返事で、不本意だが出来なくなった。処理機は10年ぐらい使えるような頑丈なものにすべき。また修理も出来るようにしないと意味が無い。

**\*草の根のメンバーが小山田地域に多いということもあってか、鶴間地域もまた特有の環境問題を抱えている地域だと強く感じた。ごみ処理施設の一極集中の小山田地域（他市の焼却施設が隣接）、高速道路や2つの大きな国道を抱える等々、鶴間地域もまた重い課題を抱えている**

**\*1999年から始まった町田市による廃プラスチック中間処理施設建設の動きは、地元地域だけでなく各地で強烈な反対運動の後、頓挫した。「ごみは減りませんよ。あなた方市民が出すから増えるんです。」忘れもしない当時の環境部長の言葉。「隠して」「画して」市民の合意は得られず時間だけが過ぎた。市長が変わり、環境ごみ行政そのものの姿勢が変わってきている。大切なことは隠さないということ、そして、ごみを減らそうと、敢えて困難な道に挑戦している行政の姿がある。市民の不安を取り除くために、先の審議会ではプラスチックの収集・圧縮・結束の際にどのような化学物質が出るのか、市民立会いの下に圧縮実験まで行っている。ここまでの自治体は全国でもないだろう。**

※実験結果の詳細は町田市ホームページ→ 審議会の動き→ 廃棄物減量推進審議会へ

**\*市民の安心・安全をどう築くのか。施設建設にあたっては、「何か問題が起きたときには施設を止め、専門家に入ってもらい、対策を取る」この仕組みが不可欠だと考える。**

**草の根**